

グラスファイバーメッシュ



ブライトン株式会社

<http://www.brigh-ton.co.jp>

初期乾燥

クラックのクレーム件数 **ゼロ!!**※

塗り壁最大の心配はクラック。クラックが出てしまったからでは塗り壁の補修は大変困難です。そこでグラスファイバーメッシュ。モルタル下地における乾燥クラックを防ぎ、塗り壁仕上げのクラックを大きく予防します!!

※ブライトン調べ グラスファイバーメッシュをモルタル下地に施工した現場の5年間のクレーム件数

クラックが出てしまった!!

- ・部分的な補修は補修跡が目立つ
⇒ **一面塗り直しが必要**になる
- ・材料の再購入や手間賃発生等々

- ・クラック補修工事のコストで**利益減少**
- ・施主様の**イメージダウン**や
トラブルの原因になる可能性も



簡単施工で効果絶大!!

塗り壁の下地にグラスファイバーメッシュ90を埋め込むことにより、下地の乾燥クラックの発生を大幅に抑えることができます。丈夫なガラス繊維は強い引っ張りの力にも耐え、耐アルカリコーティング加工が施されているのでモルタルに埋めても長期間劣化することはありません。また縦糸と横糸がしっかりと編みこんであるので、とても丈夫でよれて型崩れすることもなく、さらにとてもしなやかなのでコーナーの取り回しもカンタンです。

ほんの少し手間を加えてグラスファイバーメッシュを施工するのと、後々時間とお金を掛けてクラックを補修するのと、最終的にどっちが得か？もう、お分かりですね。



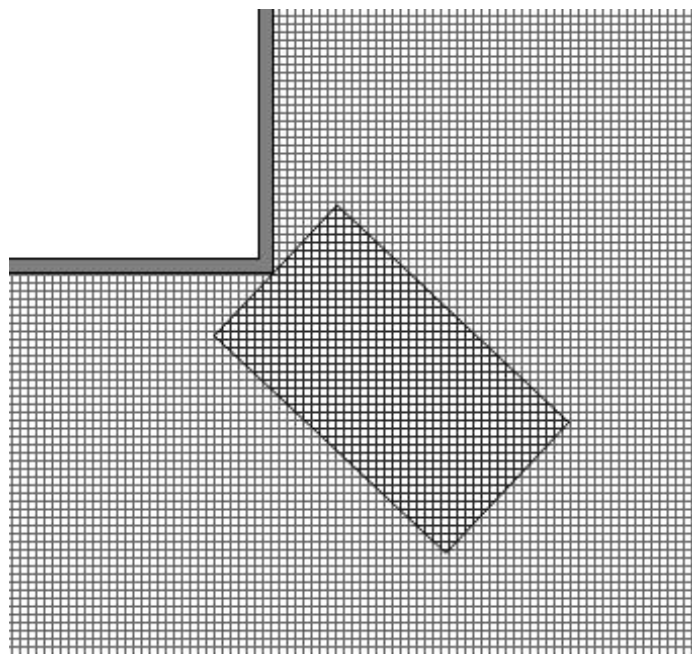
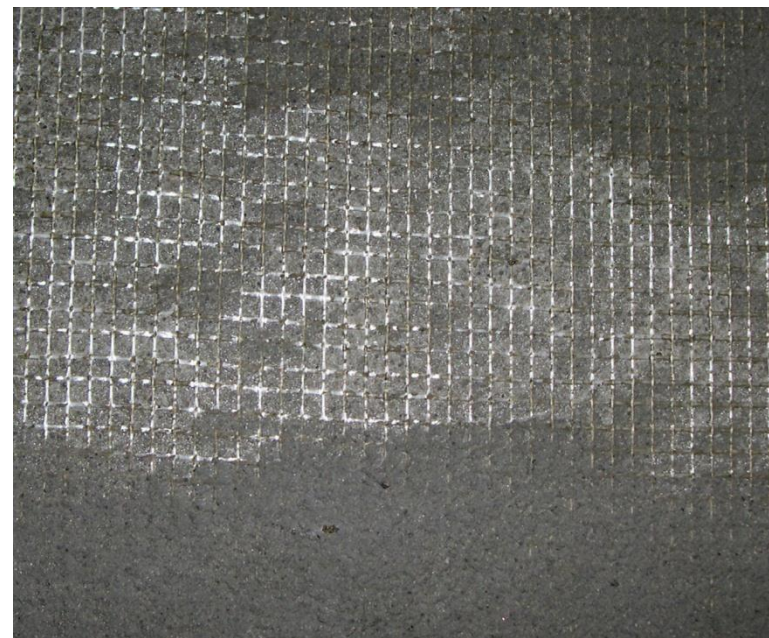
モルタル下地の場合

モルタル下地の塗り壁のクラックは、モルタルの初期乾燥クラックによるものが多数を占めています。十分に乾燥し切っていないモルタルに塗り壁仕上げをした場合、モルタルの乾燥とともに塗り壁にもクラックが出てしまいます。

モルタル塗付時、モルタルの表面にグラスファイバーメッシュを貼り付け、コテで軽くしごくともルタルに埋まっています。壁面全面貼付してください。縦貼り横貼りどちらも可能です。とてもしなやかで丈夫なので出隅入隅もメッシュをとり回すことができます。



モルタルの表面にやや顔を出す程度の表層にグラスファイバーメッシュを埋めます。モルタルの中深くに埋め込んでしまうと、メッシュより表層部分のモルタルがクラックを起こしますので注意してください。



窓などの開口部には構造的に力がかかるので、細く切ったグラスファイバーメッシュを開口部の対角線上に30～50cm程度2重貼りするとより効果的です。

ボード系下地の場合 (サイディング・セメントボード)

ボード系下地の塗り壁のクラックはボードの目地部分が動くことにより起こります。気温の変化によるボードの膨張や収縮をはじめとして、加重、振動、地盤、構造的欠陥などその原因は様々で、完全に解決することは難しいといわれています。

クラックを出しにくくするためにはメッシュの施工以外にも色々工夫をするとより効果的です。

- ・合板を捨て貼りしてボードを二重貼りにする。
- ・約10cmピッチで胴縁にビス止めする。
- ・補助胴縁を入れてビス止めする。

など、ボード自体の動きを止める工夫をしてください。



メッシュが目地をまたぐように

重ね代は5cm以上



メッシュはボードの目地上だけでなく壁面全面に貼ってください。ボードの動きを面で支えるのでクラックに対してより強くなります。またジョイントテープを使用した場合、目地が帯状に透けて見えることがあります。それを防ぐ効果もあります。

ボードの表面全面に樹脂モルタル等を塗布し、そこにグラスファイバーメッシュを貼っていきます。ボードの目地をまたぐようにメッシュを貼ります。重ね代は5cm以上取ってください。

